

スターリン全集刊行会訳

スターリン全集

第五卷

大月書店刊

スターリン全集

一九五二年十一月二十七日發行

定價 四八〇円

第五卷

訳者

スターリン全集刊行会

発行者

東京都文京区本郷一ノ二五
小林直衛

印刷者

東京都千代田区内幸町二ノ二〇
株式会社太平印刷社

製本者

東京都千代田区錦町三ノ二四
株式会社田中製本所

発行所

東京都文京区本郷
一丁目一五番地

大

月書店

電話小石川(85)三〇九一番
振替・東京一六三八七番

訳者はしがき

一 本巻は、ソ同盟共産党（ボリシエヴィキ）中央委員会付属 マルクス・エンゲルス・レーニン研究所編集の『イ・ヴェ・スターリン全集』第五巻の翻訳である。

一 スターリンの原注は * をもってしめす。そのほかの注は、日本の読者の便宜を考え、原書の編集者注を参考にして、訳者がつけたものである。ごく簡単な注は角がっこ「」にかこんで本文中にいたが、他は事項注と人名注とにわけ、本文の終りに一括してつけた。人名は、本文のなかに出てくるかぎり、原則としてすべて注をつけることにした。事項注は本文に出る注番号の順に、人名注は「アイウエオ」順に、それぞれ排列した。

一 原文のゴシック体の箇所は訳文でもゴシック体にし、隔字体の箇所には傍点をつけ、頭文字だけでくんである箇所は活字をいちだん大きくした。ただ見出しのところは、かならずしもこの方針によらなかった。

一 本文のうえの欄外にある算用数字は、翻訳底本とした原書のページ数をしめす。

一 全集版原書では、『レーニン全集』からの引用のばあい、その第三版の巻数とページ数がしめしてあるが、翻訳にあたっては、それらをすべて第四版の巻数、ページ数にあらためた。

一 翻訳の参照は、マルクス、エンゲルスについては、『マルクス・エンゲルス選集』（大月書店版）、レーニンについては、『レーニン二巻選集』（社会書房版）によった。したがって角がっこ「」中の巻数、分冊数、

ページ数は、右の二つの選集の巻数、分冊数、ページ数である。

一人名、地名は現地の発音に近く表記することを原則としたが、慣用のものについては、それをもちいたばあ
いが多い。

一 翻訳は、それぞれ担当の訳者がまず訳出し、これに校閲者団が、各国語訳および邦訳をも参照しつつ、厳密
に校訂をくわえ、さらに術語、用字、文体などの整理、統一をおこなって、完成したものである。

序 文

第五巻には、一九二一—一九二三年のあいだに書かれた、イ・ヴェ・スターリンの著作がおさめてある。

この巻の主要な内容をなすのは、国民経済の復興にかんする党の諸任務についての、ネップの条件のもとので、労働者階級と農民との同盟の新しい形態についての、党の組織上および思想上の統一の強化についての、また党と大衆との結びつきの形態と方法についての論文、報告および演説『われわれの意見の相違』、『グルジアおよび外カフカズにおける共産主義の当面の任務について』、『展望』、第十回および第十二回党大会における報告である。

本巻には小冊子『ロシア共産主義者の政治的戦略と戦術について』の計画原案と、論文『権力獲得前の党と獲得後の党』、『ロシア共産主義者の戦略と戦術の問題によせて』がおさめてあるが、イ・ヴェ・スターリンは、これらのなかで、ボリシェヴィキ党の政治的戦略と戦術にかんするレーニンの学説を發展させている。

(VI)
第五巻におさめられた著作の多くの部分が、民族問題の理論の發展に、ボリシェヴィキ党の民族政策に、ソヴェト多民族国家の建設に、また最初のソヴェト同盟憲法の基本的諸条項の完成にさざげられている（第十回および第十二回党大会へのテーゼ、第十回および第十二回党大会における報告、ならびにロシア共産党（ボ）中央委員会と、民族共和国および民族州の責任活動家との第四回協議会における報告、第十回全ロシア・ソヴェト大会

およびソヴェト同盟第一回ソヴェト大会における報告、論文『民族問題の提起によせて』、『十月革命とロシア共產主義者の民族政策』その他。

つぎの諸著作は、この巻ではじめて公刊されるものである。『ロシア共產主義者の政治的戦略と戦術について』——小冊子の計画原案、『民族問題にかんする綱領草案』、報告『民族問題にかんする第十二回党大会の決議を實行するための実践的諸方策』、ロシア共産党（ボ）中央委員会と、民族共和国および民族州の責任活動家との第四回協議会における報告の結語と質疑応答。

ソ同盟共産党（ボ）中央委員会付属

マルクスⅡエンゲルスⅡレーニン研究所

目次

序文	三
----	---

一九二一年

ロシア社会主義連邦ソヴェト共和国内のトルコ族系諸民族共産主義者会議の開会にあたっての演説	一五
われわれの意見の相違	一八
一 労働者大衆への接近の二つの方法	一九
二 自覚した民主主義と、よぎない「民主主義」	二三
民族問題における党の当面の任務について	二九
一 資本主義制度と民族的抑圧	二九
二 ソヴェト制度と民族の自由	三三
三 ロシア共産党の当面の任務	三六
ロシア共産党（ボ）第十回大会	四三

一 民族問題における党の当面の任務にかんする報告	五
二 結 語	五
ヴェ・イ・レーニンへの手紙	六
民族問題の提起によせて	六
第一回山地人婦人大会へのあいさつ	七
ロシア共産主義者の政治的戦略と戦術について	七
一 用語の規定と研究の対象	七
二 ロシアの発展における歴史的諸転換	九
三 問 題	八
グルジアおよび外カフカースにおける共産主義の当面の任務について	九
権力獲得前の党と獲得後の党	一〇
十月革命とロシア共産主義者の民族政策	一三
展 望	二六

一九二二年

『プラウダ』に……………一七

『プラウダ』創刊十周年によせて……………一八

一 レナ事件……………一八

二 『プラウダ』の創刊……………一九

三 『プラウダ』の組織的意義……………二〇

休養中の同志レーニン。覚え書……………二〇

ペトログラードと代表ソヴェトへのあいさつ……………二〇

独立の諸民族共和国の統合の問題……………二〇

諸ソヴェト共和国の統合について……………二一

ソヴェト社会主義共和国同盟の形成について……………二一

一九二三年

ロシア共産主義者の戦略と戦術の問題によせて……………二一

一 予備概念……………二二

一 勞働者の運動の二つの面	一七二
二 マルクス主義の理論と綱領	一七三
三 戦 略	一七四
四 戦 術	一七六
五 斗争の形態	一七九
六 組織形態	一八〇
七 スローガン。指令	一八一
二 戦略計画	一八三
一 歴史的諸転換。戦略計画	一八三
二 第一の歴史的転換と、ロシアにおけるブルジョア民主主義革命のコース	一八四
三 第二の歴史的転換と、ロシアにおけるプロレタリアートの独裁のコース	一八六
四 第三の歴史的転換と、ヨーロッパにおけるプロレタリア革命のコース	一八八
党建設および国家建設における民族的諸契機	一九二

一	一九二
二	一九〇

ロシア共産党（ボ）第十二回大会	一九三
-----------------	-----

一	ロシア共産党（ボ）中央委員会の組織報告	二〇五
二	中央委員会の組織報告にかんする結語	二三九
三	党建設および国家建設における民族的諸契機にかんする報告	二四三
四	党建設および国家建設における民族的諸契機にかんする報告の結語	二七〇
五	決議の修正にたいする回答	二八一
六	民族問題小委員会の報告にたいする補足	二八四
	集団的組織者としての出版物	二八六
	森の奥深くいけばいくほど	二九一
	ロシア共産党（ボ）中央委員会と民族共和国および民族州の責任活動家との第四回協議会	二九七
一	第四回協議会のための民族問題にかんする綱領草案、	
	中央委員会政治局によって承認されたもの	二九九
	民族問題にかんする党活動の一般方針	二九九
	同盟中央執行委員会の第二院の設置と	
	共和国同盟人民委員部の諸組織とに關連する諸問題	三〇〇

党建設およびソヴェト建設へ地方住民の勤労的分子をひき入れる方策	三〇三
地方住民の文化的状態を向上させる方策	三〇四
民族的生活様式の特異性という見地から見た民族共和国および民族州における経済建設	三〇四
民族軍部隊を組織する実践的方法について	三〇五
党的教育活動の組織	三〇六
第十二回大会の民族問題にかんする決議を实行するという観点から見た、党活動家およびソヴェト活動家の選抜	三〇六
二 民族共和国および民族州における右翼と「左翼」について	三〇七
三 民族問題にかんする第十二回党大会の決議を实行するための実践的諸方策	三二〇
四 結語	三二三
五 發言にたいする回答	三四五
十月革命と中間層の問題	三四七
第一回婦人労働者、農村婦人大会の五周年記念日によせて	三五三
陸軍大学の祝賀会における演説	三五七
党の諸任務について	三五九

討論は党の力をしめす標識である	三六〇
討論の諸原因	三六一
党内生活の欠陥	三六二
欠陥の諸原因	三六五
党内生活の欠陥をどのようにしてとりのぞくか	三六七
討論について、ラファイルについて、プレオブラジエンスキーと	三六八
サプローノフの論文について、トロツキーの手紙について	三六九
討論について	三七〇
ラファイルについて	三七九
プレオブラジエンスキーの論文について	三八二
サプローノフの論文について	三八五
トロツキーの手紙について	三八八
必要な指摘（ラファイルについて）	三九三

『コンムニスト』紙へのあいさつ	三九七
-----------------	-----

付録

付録第一 ソヴェト社会主義共和国同盟の形成にかんする宣言	三九八
付録第二 ソヴェト社会主義共和国同盟の形成にかんする条約	四〇一
事項訳注	四〇九
人名訳注	四三一
スターリン年譜（一九二一—一九二三）	四四三

一九二一—一九二三年

